

平成30年度 全国学力・学習状況調査結果及び分析・対策（松江市立古志原小学校）

平成30年9月 25日

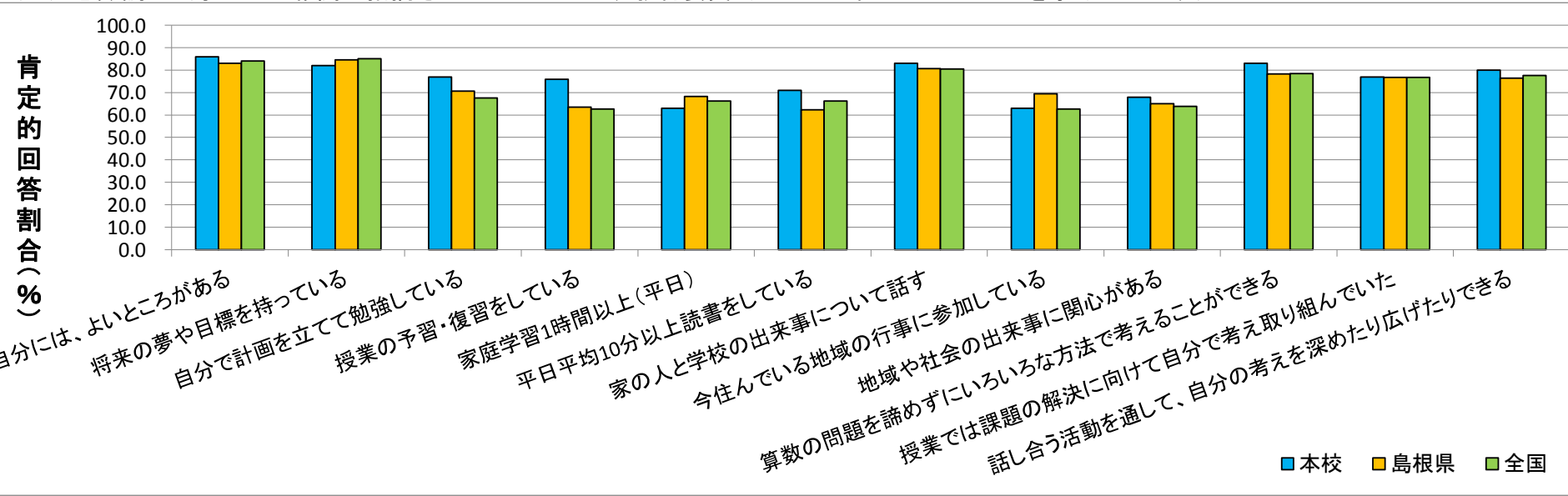
(1) 学力調査結果から見られた傾向

		成果と課題(○：成果，●：課題)	対 策
国語	A (基礎)	○物語の構成を問う問題で、正答率が全国平均より高い。授業の中で、物語文の場面わけや説明文の構成の読み取りなどの学習を丁寧に行った。 ●主語述語の関係や敬語や漢字など、学習してから時間の経っている問題の正答率が全国平均より低い。	・文章の組み立てを探る授業は、今後も継続する。 ・読み取りの問題で下学年での知識を活用する場面を設けたり、校内の漢字テストで下学年の問題を取り入れたりするなど、下学年で習得したことを想起する機会を持つようにする。
	B (活用)	○選択式の問題の正答率が高い。 ●記述式問題の正答率が低く、無解答率が全国より高いことから、書いていなくてできていない児童の割合が高いことが分かる。	・短く書いて答えるワークシートなど、短時間で取り組むことのできる「書く」課題を積み重ねたり、毎日の自学の中に日記を取り入れたりするなど、日頃から書く機会を増やす。 ・読書を引き続き奨励する。
算数	A (基礎)	○「数と計算」領域の正答率が高い。 ●「数量関係」領域の中でも、割合や小数の割り算の意味理解に関する問題の正答率が低い。 ●「図形」領域では、公式に関する問題の平均点が低い。	・計算会など計算力をさらに高める取り組みを今後も継続する。 ・数量関係に関して、授業で立式する時に式の意味を考える場面を増やす。また、下学年の復習を定期的に行う。
	B (活用)	○算数Aと同様に、「数と計算」領域の正答率が高い。 ●「図形」領域の正答率が低い。 ●記述式問題の正答率が低く、無解答率が高い。特に、自分の考えを説明するような記述式問題でその傾向が見られる。	・「図形」領域に関しては、授業の中で基本的な内容の習得に力を入れるとともに応用力をつける課題を取り入れる。記述式問題については、説明する活動を重視し、筋道立てて考える力を育てたい。
理科		○「生命」分野の正答率が比較的よい。 ●「エネルギー」分野の正答率が低い。 ●人の体、電気のはたらきなどの分野の正答率が低い。	・国語、算数と同様に、学習してから時間の経っている内容の正答率が低い。授業や家庭学習などで復習に力を入れるような指導の工夫をしていきたい。

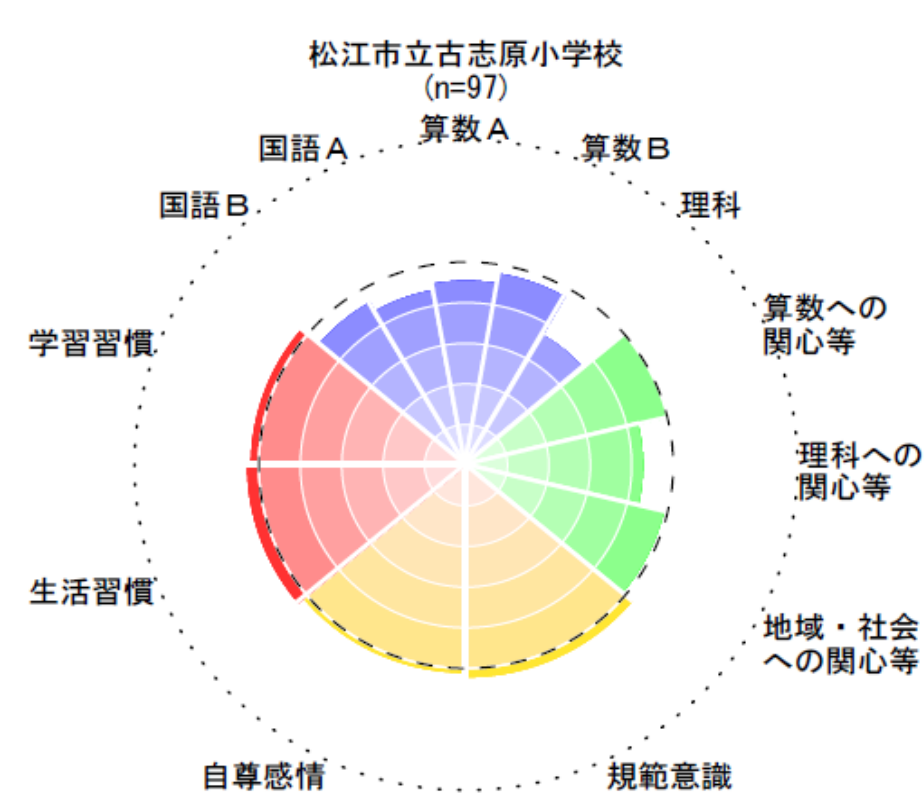
(2) 生活意識調査から見られた傾向

		成果と課題(○：成果，●：課題)	対 策
		○自己肯定感の高い子どもが多く、読書量が多い。また、友だちと力を合わせて取り組む問題を好む傾向にある。 ●一日あたりの家庭学習時間が少ない。 ●将来の夢や目標を定められていない割合が若干高い。	・家庭学習については、今回の結果に基づいて家庭への啓発を行うとともに、宿題に取り組む時に学習時間を意識するなどの指導を行う。 ・特に道徳の時間などに、自分の将来や目標について考える時間を重視する。

(3) 意識調査（学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています）



(4) 学力調査及び生活意識調査から見られた傾向（破線は全国平均）



(5) その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・以前に学習したことを忘れてしまうという傾向が特に見られるので、どの教科でも既習の内容を少しずつ取り入れたり、家庭学習において復習を取り入れたりするなど、指導の仕方を工夫する。

【参考】

○平均正答率		本 校	松江市	島根県	全国
国語	A	65	70	68	70.7
	B	51	57	55	54.7
算数	A	59	62	61	63.5
	B	49	50	49	51.5
理科		51	59	58	60.3

受検者数 97 人
※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示しています。